

2018(平成30)年度 NBRP 情報運営委員会 議事要旨

日時：2018(平成30)年6月13日(水) 14:00~16:15

会場：情報・システム研究機構 会議室

出席者：田畑(委員長)、加藤、小原、小林(敬)、小林(正)、五斗、高野、成瀬、星、細矢、榎屋、城石、仁木、川本、鈴木(睦)、綿貫(松沢委員代理) の各委員

欠席者：竹谷、平田 の各委員

オブザーバー：文部科学省ライフサイエンス課 佐々木係長、日本医療研究開発機構(AMED)基盤研究課 笹土主幹、鹿児島遺伝研特任研究員、深見九大教授、村上首都大教授、渡邊筑波大教授、岡田筑波大研究員、鈴木(智) NBRP 広報室長、佐藤 NBRP 広報室顧問

事務局：総務企画課長、研究推進チーム

議事に先立ち、田畑委員長より、AMED 笹土主幹、また新規委員4名の紹介があった。

【議 事】

1. 報告事項

(1) 2017年度活動報告と2018年度計画について

課題1：情報センター

川本委員から資料1に基づき、情報センター整備プログラムの事業体制及び内容、2017年度活動報告、2018年度活動計画、第1回情報技術ワーキング報告、第11回データベース研究会案内、GDPRへの対応について報告があった。

その中でも、平成29年度活動報告及び平成30年度活動計画について、以下の説明があった。

【平成29年度活動報告】

- ・各リソースのウェブサイトについて、アクセス数と利用者数のみカウントしていたが、より詳細に解析するレポート機能を構築した。
- ・各リソースのウェブサイトは遺伝研内サーバーで運用しているが、2017年11月に酵母サーバーにおいてミドルウェアの脆弱性をついたものによる不正アクセスがあり、個人情報漏えいは確認できなかったが、酵母のサービスを2週間以上止める事態となってしまった。なお、機構内情報セキュリティ委員会まで報告済みである。
- ・追加配分の予算で、今まで運用していなかったネットイテムガエル管理分譲サイトを新規構築した。
- ・リソースを利用したことにより発表された成果論文がリソースの成果を示す指標として重要視されており、それを強化するため成果論文データベース RRC をリニューアルし、統計情報ページの作製、Google スプレッドシートの連携機能を追加した。

【平成30年度活動計画】

- ・リソース関連の開発について、ショウジョウバエ検索分譲システム及びメダカ画像検索の開発、線虫ウェブサイトのリニューアルを予定している。
- ・ヒトの疾患研究が注目されており、今後人の遺伝子シンボルで全リソースが検索できるようなシステムの開発を目指している。
- ・テープドライブによるバックアップシステムの見直し、総合検索システムのリニューアルを予定している。
- ・NBRP 広報室と一体化した、より情報発信力の高いポータルサイトを目指したリニューアルを計画している。

課題 2 : GAIN

綿貫代理から資料 2 に基づき、概要、2017 年度活動報告及び 2018 年度活動計画（データベースへの最新情報追加・更新、各個体のゲノム・行動・形態情報の収集、個体情報の拡充と個体群管理、情報提供の国際化の推進）について、説明があった。

その中で GAIN 情報データベースの登録個体数について、日本動物園水族館協会が独自で持っている登録数よりも、はるかに上回る個体数が登録できている旨、報告があった。

課題 3 : GBIF 日本ノード (JBIF)

細矢委員から資料 3 に基づき、平成 30 年度の現在までの活動報告（国立科学博物館：研究会開催、標本情報の電子化・データベースの構築、生物多様性情報関係者との連携促進。東京大学：生物多様性情報の利用・活用推進、種名チェックリストの作成、生物分布情報の収集及び電子化、種情報システムと DNA バーコードシステム構築。国立遺伝学研究所：サーバ構成、サーバ管理、アクセスログ、GBIF データ登録情報、JBIF ポータルサイト更新状況。ワーキンググループ：ノード委員会・科学委員会合同委員会、関連団体・プロジェクト等の交流、S-net サイト更新、GBIF データ公開支援依頼への対応）、について報告があった。

また今後の活動計画（国立科学博物館：リソースデータの国際標準対応と GBIF へのデータ提供、生物多様性情報関係者との連携の促進、GBIF 日本ノードの円滑な運営、生物多様性情報の利用・活用促進。東京大学：生物分布情報の国際標準化対応、種名チェックリストの作成、生物分布情報の収集・電子化、種情報システムと DNA バーコードシステム構築。遺伝研：科博データの標本・観察データ検索システム追加公開、GBIFValidator への移行検討。ワーキンググループ：関連集会について、各種文書等の改訂、S-Net 運営体制の強化、来年度のアジア地域会合。）について、説明があった。

課題 4 : ABS 対応

【国立遺伝学研究所】

鈴木知財室長から資料 4 - 1 に基づき、ABS 対応課題の概要（背景、活動の概要、第 3 期との違い、審査結果、第 4 期目標、自己評価のポイント、マイルストーン、5 年後の作成された体制、活動の体制と活動概要）、平成 29 年度の活動報告（貴殿資源取得支援、大学体制構築、国際対応、NBRP リソース機関への対応）、平成 30 年度の計画（遺伝資源取得支援、大学体制構築、国際対応、NBRP リソース機関への対応）について、説明があった。

その中で、ABS における大学構築体制について、一つの部署だけで完結するものではなく、関連部署との連携が必要であるとの意見があった。

【九州大学】

深見教授から資料 4 - 2 に基づき、2017 年度実績報告（ABS 対応相談、海外の ABS 関連法状況）、2018 年度実施計画について、説明があった。

その中で、これまでの事例を基に ABS 指針を遵守するための学内規程を作成した旨、報告があった。

【首都大学東京】

村上教授から資料 4 - 3 に基づき、2017 年度活動報告（研究者支援、支援ツール作成）、2018 年度計画について、説明があった。

その中で、首都大学東京（日本）、生態学生物資源研究所（ベトナム）、高雄医科大学（台湾）の 3 機関合同ワークショップ開催を検討している旨、説明があった。

【筑波大学】

渡邊教授から資料 4 - 4 に基づき、平成 29 年度活動報告（事業内容、調査研究、理解支援）、平成 30 年度活動計画（事業内容、活動要点）について、説明があった。

その中で、対象生物により手続きが異なるため、単年度で手続き終了とならないものもあり、入手までの時間を要する案件もあるとの意見があった。

課題5：NBRP 広報

鈴木 NBRP 広報室長から資料5に基づき、学会展示および講演企画、2018 年度版 NBRP パンフレットの作成（日英）、NBRP ホームページの改新、NBRP ポスター（チラシ）の関係機関への配布、各リソース運営委員会開催情報と資料の収集・推進委員への告知及び参加、AMED 主催関連講演会及び研究集会用 NBRP 広報リーフレットの作成について、説明があった。

その中で、各リソースのホームページ上に掲載されている技術研究やプロトコルをリンクし、一覧表示できるようにしていきたいとの説明があった。

2. 審議事項

(1) 運営並びに活動方針に関する意見交換

1. 報告事項及び2018年度の計画全般に関して、以下の意見交換を行った。
 - ・ 予算が減少している中で、各リソースからの要望における選定方法について、主観的な部分もあるが、大がかりになるような案件は長期計画をたて、また新規のリソース等は早急に行う等の対応をしている。
 - ・ データベースの充実が利用者増につながったかどうか、課題との間で利用者数アクセス数の情報を共有することにより、今後効率的な計画遂行ができるのではないか。
 - ・ NBRP では寄託事業も重要。寄託事業を知らずに Addgene など海外に寄託し、国内のユーザーが高い分譲料で取り寄せている場合がある。各リソースに確認しながら寄託に関する広報もお願いしたい。
 - ・ 情報センターの今年度計画であるバックアップシステムの見直しについて、テープドライブは復旧に時間を要するため、NAS(ネットワーク HDD)を考えているが、設置場所やバックアップスケジュール等検討していかなくてはならない。
 - ・ ABS に関する相談窓口について、一元化はしておらず、所属学会など様々なルートを通じて、遺伝研、九大、首都大、筑波大のどこでも相談できる。
 - ・ 安全保障の輸出規制に関する相談窓口に関して、機関管理のため機関ごとに対応していただく。これに関して、文部科学省佐々木係長より、輸出管理については機関管理の中で実施することとなっているので、提供後の措置については、当該機関が責任を持って取り組むべき話であると考えられる旨、補足説明があった。

(2) その他

文部科学省佐々木係長より、第4期では「リソースの利活用促進」が一つのテーマとであり、広報の役割は重要である。継続的な活動も重要であるが、その効果の検証をいただき、効果的な広報活動を実施していただきたい旨の意見があった。また、寄託受入に関しては、AMED 公募要領、科研費公募要領で周知しているところであるが、今後、NBRP 広報室と検討を行い、更なる発信をしていきたい旨、発言があった。

AMED 笹土主幹より、「難治性疾患実用化研究事業（IRUD Beyond）のモデル動物コーディネーティングネットワーク」について、ゲノム編集が安価に解析できるようになり、医療やそれ以外のところで NBRP の基盤となるリソースを利活用してもらえよう、引き続き活動や広報をお願いしたいとの発言があった。

以上